

地域支援体制整備事業

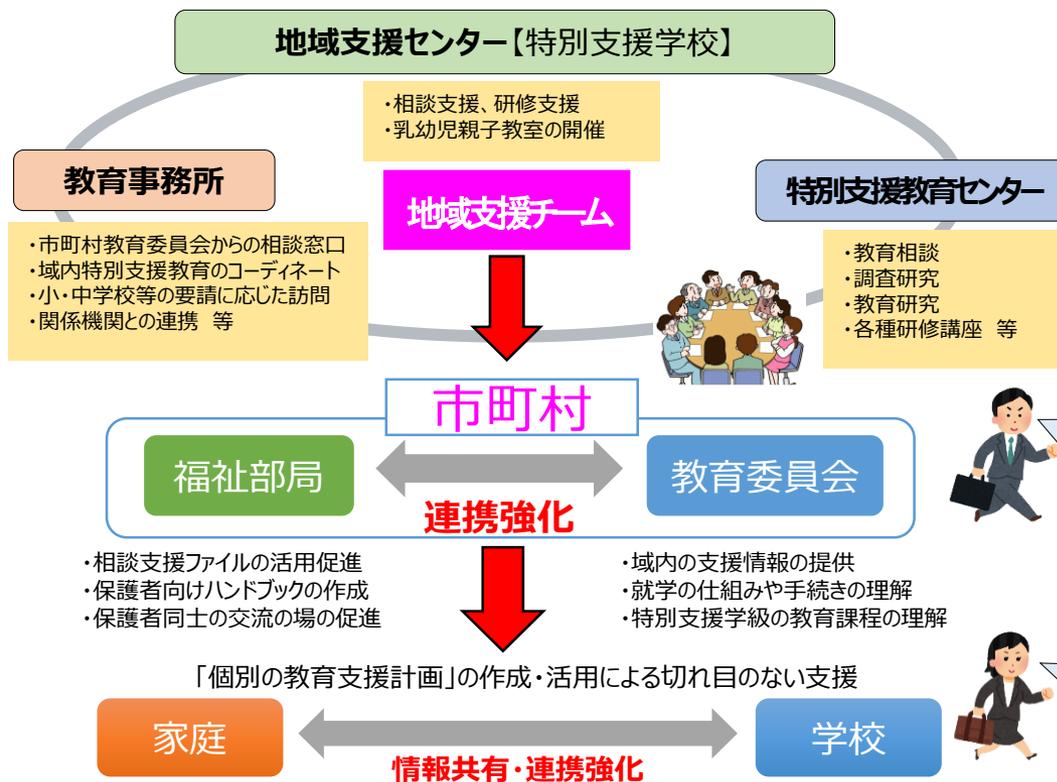
現状・課題

- H30より県立特別支援学校24校に『地域支援センター』を校内に位置付け、センター的機能として地域支援を進めている。
- R4は、出かける支援件数は978件、来校相談件数は1,375件、地域支援アドバイザー相談件数は506件で、合計2,859件であった。
- 視覚障がい、聴覚障がいの児童生徒は県内各地に在籍しており、乳幼児期からの適切な支援を必要としている。
- 人工呼吸器や胃ろう等を使用し、喀痰吸引や経管栄養等の医療的ケアを必要とする児童生徒も県内各地に在籍しており、地域で学ぶための支援体制を整えていくことが求められる。
- 入院している児童生徒への教育は保障されてきたが、学習の質や遠隔教育の推進、学校と病院との連携に課題がある。
- 知的障がいのある児童生徒の学びの場は整備されてきたが、就学の仕組みや手続き、教育課程の編成、個別の教育支援計画の活用、就労に課題がある。

目標

- 児童生徒や保護者の就学への不安を支えるとともに、卒業後まで支援をつないでいく。
- 特別支援教育に係る各市町村の支援体制の整備・充実を図る。

「地域支援体制」の連携図



「地域支援体制」を整備するための会議・研修会

<地域支援体制を戦略的に進める会議>

- ・事業担当者会議(年3回)
- ・**地域支援チーム戦略・連携会議(年3回)新規**
- (必要に応じて、高等学校配置の個別支援コーディネーターとの連携会議)

<各種会議>

- ・特別支援教育推進会議
- ・教育支援協議会
- ・特別支援教育体制促進協議会
- ・地域支援担当者会議

<各種研修会>

- ・地域支援センター研修会
- ・特別支援学級教育課程研修会
- ・特別支援教育センターでの研修会 等

特別支援教育アドバイザー 10校10名

- ①視覚障がい、視覚支援学校
- ②聴覚障がい、聴覚支援学校
- ③肢体不自由、郡山支援学校、平支援学校
- ④病 弱:須賀川支援学校
- ⑤知的障がい:大笹生支援学校、あぶくま支援学校、石川支援学校、会津支援学校、富岡支援学校

- ・地域の各学校への相談・研修支援、校内支援体制整備
- ・個別の教育支援計画の作成・活用に係るアドバイス
- ・就学前の保護者への相談支援
- ・市町村教育委員会への就学に関するアドバイス
- ・保健・福祉・医療、就労等の関係機関との連携

入院児童生徒支援員 2校2名

- ①病 弱:須賀川支援学校、須賀川支援学校郡山校

- ・医療、保健、福祉、労働等の各関係機関との連携
- ・入院児童生徒に関するケース会議(カンファレンス)の開催
- ・ICT機器を活用した遠隔教育による学習支援
- ・退院後の継続した復学支援(フォローアップ)
- ・病院へ出かけた際の定期的な学習支援
- ・保健・福祉・医療、就労等の関係機関との連携
- ・個別の教育支援計画の作成・活用に係るアドバイス

入院児童生徒支援員について

R5.4.1

特別支援教育課

～児童思春期病棟での長期入院中の児童生徒に対する遠隔教育支援～

現状・課題

- 10代でうつ病や不安症、摂食障害等の精神障がいを発症し、日常生活に支障をきたしている児童生徒がおり、入院治療を必要とするケースが出てきている。
- そのため、本県において、児童思春期精神科専門病棟(病床)が開設されてきている。
- 入院が長期化する場合、児童生徒の学習の機会の保障や復学の困難さ等が課題となっている。

学習支援体制の構築

